

18世紀以前ヨーロッパにおける 医学実地書とその著者

坂井 建雄

順天堂大学大学院医学研究科 解剖学・生体構造科学

多数の個別疾患についてその原因、診断、治療を述べた医学書は、広く用いられている。現在の内科学書はその代表例である。同様の臨床医学書は歴史上も連綿として出版されてきたが、その表題と内容には時代により大きな差異がある。18世紀終盤には、疾患を植物の種と同様に分類する疾病分類学が主流であり、そこから19世紀にかけて臨床医学書の構成が大きく変化したことを、筆者はすでに報告した。

18世紀以前において、多数の疾患についてその原因、診断、治療を述べた臨床医学書は、「医学実地 *Practica medicinae*」もしくは類似の表題がしばしばつけられていた。また医学実地 *practica* は、医学理論 *theoria* と並んで、18世紀以前のヨーロッパの大学の医学教育で教えられる主要な科目であった。本資料では、18世紀以前において個別の疾患を網羅する臨床医学書で、疾病分類学に先行するものを扱っているが、医学実地書はその総称である。医学実地書の多くは、頭から足までの部位毎の疾患および熱病を内容に含んでいる。

本資料は、医学実地書をできる限り網羅的に収集し、その書誌、内容、出版状況、著者を、年代順を調べて、年代順に掲載し、別稿の論文「18世紀以前ヨーロッパにおける医学実地書の系譜——起源から終焉まで——」¹⁾に付属するものである。標題の中に「医学 (*medica, medicina*)」、「実地 (*practica, praxeos*)」を含む著作をデジタル画像、リプリント、原典として可能な限り収集し、その内容を調べて個別の疾患を扱うもののみを医学実地書と判定した。著者の生前に出版された場合には初版の刊行年、没後に出版された場合には著者の没年をその著作の年代とした。その数は95人

の著者による101編で、通し番号をつけた。1人の著者が複数の医学実地書を出版している場合には、年代の古い方にまとめてそれぞれに番号を与えた。ただし、部位別の疾患と熱病が別の著作で扱われる場合には、合わせて1つの番号を与えた。

医学実地書の年代は11世紀から18世紀末まで長い年代にわたるので、4期に分けて掲載した。(A) 1500年以前で冊子写本 (*codex*) もしくは挿籃印刷本 (*incunabla*) として書かれたもの。(B) 1500年から1630年頃まで、活版印刷による大量出版を前提として書かれたもの。(C) 1630年頃から1710年頃まで、医学実地の最大の著作であるゼンネルトの『医学実地』全6書 (1628-35) およびそれ以後に書かれたもの。(D) 1710年頃以降で、医学史上最も大きな影響を与えた医学教師ブルハーフェの『箴言』(1709) およびそれ以後に書かれたものである。

各医学実地書および著者について、4種類の情報を掲載した。

①書誌：各著作について、入手可能なすべての刊本を収集し、そのうち最も刊行年の早いものについて、著者名、表題、出版地、出版者、刊行年、判型 (サイズ)、頁数 (ないし葉数) を記した。

②内容：書誌を記した刊本について、その目次ないし本文中の見出しを調べて、主要項目とその内容の概略が分かるキーワードを記した。

③出版：著作の影響を知る手がかりとして、各著作の版の出版地と刊行年を記した。世界の主要な図書館の目録を調査し、独自に入手できた刊本も加えた。図書目録としては、米国国立医学図書館 (*National Library of Medicine; NLM*)、フランス国立図書館 (*Bibliothèque nationale de France; BnF*)、

17世紀ドイツ語圏印刷物目録(Das Verzeichnis der im deutschen Sprachraum erschienenen Drucke des 17. Jahrhunderts; VD17), 大英図書館(British Library)のものをおもに利用した。

④著者: 執筆目的を知る手がかりとして, 医師として活躍した地域および活動の概略を記した。医学者などの伝記を扱った辞書類, Hirsch “Biographisches Lexicon der hervorragenden Aerzte aller Zeiten und Völker.” (1884–88), Gillispie “Dic-

tionary of scientific biography.” (1970–80), Bynum and Bynum “Dictionary of medical biography.” (2007)をおもに利用した。

注

1) 坂井建雄: 18世紀以前ヨーロッパにおける医学実地書の系譜——起源から終焉まで——。日本医史学雑誌。2015; 61: 235–253

(A) 1500年以前の医学実地書

1) ガリオポントゥス『受難録』(1050) Gariopontus (fl. c. 1035–1050): Passionarius.

Gariopontus. Ad totius corporis aegritudines remediorum praxeon libri V. Basileae: excudebat Henricus Petrus; 1531. / 8° (18×12 cm), 162 l.

内容) 7書からなり, ①頭部(24章), ②肺・胃・肝臓(66章), ③腹部(72章), ④体肢(18章), ⑤その他(45章), ⑥熱病の総論と型(30章), ⑦熱病の症状(10章)。

出版) Lyon, 1526; Basel, 1531.

著者) イタリア, サレルノ医学校の医師。生涯については不明だが, 同時代の記録に学識ある医師との言及がある。

2) コンスタンティヌス・アフリカヌス『疾患の認識と治療7書』(1098/9) Constantinus Africanus (?–1098/9): De morborum cognitione & curatione Lib. VII.

Constantinus Africanus. Operum reliqua, hactenus desiderata, nuncque primum impressa. Basileae: apud Henricum Petrum; 1536, pp. 1–107. / Folio (33×21 cm)

内容) 7書からなり, ①脳(26章), ②顔(25章), ③胸部内臓(16章), ④胃腸(20章), ⑤腹部内臓(21章), ⑥生殖器・体肢(19章), ⑦熱病・咬傷・体表(30章)。

出版) Basel, 1536(本編), 1539(補遺)。

著者) イタリア, モンテ・カッシーノ修道院でアラビア語の医学書を多数ラテン語に翻訳した。北アフリカのカルタゴで生まれ, 商人として活躍したが, イタリアでラテン語の医学書が乏しいことを知り, アラビア語の医学書を携えてサレルノに戻り, モンテ・カッシーノの修道院で翻訳に従事した。

3) プラテアリウス『実地要綱』(1150) Platearius, Joannes II (fl. 1120–1150): Practica brevis.

Serapion, Platearius J. Practica Jo. Serapionis. Index operum in hoc volumine contentorum. Practica Joannis Serapionis aliter Breviarium nuncupata. Liber Serap. De simpl. medi. sumpta a plantis: mineralibus & animalibus. Liber Galeni Ad Papiam de virtute centauree. Pra[ctica] Jo. Platearii ... Liber de simplici medi. ejusdem Platearii vulgariter Circa instans dictus. Thesaurus pauperum ab Jo[anne] XX. Pon. Max. qui ante Petrus Hispanus dicebatur multa continens a diversis auctoribus medicine scripta nunquam antea impressus. Cum tabula ... recenter addita. Lugduni: impressum per Jacobum Myt; 1525, ll. 203–222. / 4° (26×18 cm)

内容) 16書からなり, ①熱病(8章), ②頭(7章), ③眼, ④耳, ⑤鼻(2章), ⑥口(4章), ⑦呼吸(8章), ⑧胃(6章), ⑨腸(8章), ⑩肝(3章), ⑪脾, ⑫腎と膀胱(4章), ⑬陰茎と精巣(5章), ⑭子宮(4章), ⑮関節, ⑯皮膚(4章)。

出版) Venezia, 1497, 1530; Lyon, 1525.

著者) イタリア, 最盛期のサレルノ医学校で活躍した医師. 息子のプラテアリウス (Platearius, Matthaeus; fl. middle 12th century) は『単純医薬書 Liber de simplici medicina』の著者とみなされている.

4) ギルベルトゥス『医学提要』(1250) Gilbertus Anglicus (fl. 1250): Compendium medicine.

Gilbertus Anglicus. Compendium medicine Gilberti Anglici tam morborum universalium quam particularium nondum medicis sed & cyrurgicis utilissimum. Lugduni: impressum per Jacobum Sacconum, expensis Vincentii de Portonariis; 1510. / 8° (20×15 cm), 356 l.

内容) 7書からなり, ①熱病, ②脳機能, ③顔, ④頸・上肢・胸部, ⑤胃腸, ⑥腹部内臓, ⑦生殖器その他.

出版) Lyon, 1510.

著者) イギリスに生まれた医師で, 司教や国王の侍医を務め, 医学実地書を通してイギリスの中世医学に大きな影響を与えた.

5) 教皇ヨハネス21世『貧者宝鑑』(1277) Johannes XXI (1210/20–1277): Thesaurus pauperum.

Johannes XXI. Thesaurus pauperum. de medendis morbis humani corporis liber: Experimenta particularia per simplicia medicamenta ex probatissimis autoribus, & propriis observationibus collecta, continens. Francof: Haered. Chr. Egen; 1578. / 8° (17×11 cm)

内容) 85章からなり, 脳機能 (11章), 顔 (8章), 胸 (8章), 胃腸 (8章), 腹部内臓 (7章), 生殖器 (13章), 体肢 (4章), 熱病 (9章), 皮膚その他 (15章).

出版) Antwerpen, 1497; Venezia, 1518; Lyon, 1530; Frankfurt am Main, 1576, 1578年. イタリア語版 Firenze, 1492; Venezia, 1500.

著者) ポルトガル人の医師で, 1276年に教皇に選ばれ, 在位8ヵ月ほどで事故により急死した.

6) アルナルドゥス『医学実地』(1311) Arnaldus de Villanova (c.1240–1311): Practicae medicinae.

Arnaldus. Praxis medicinalis. universorum morborum humani corporis, tam internorum quam externorum, curandi viam ac methodum, summa cum doctrina & certa experientia praescribens. Lugduni: apud Ioannem Stratium; 1586. / Folio (34×22 cm), 244+314+47 pp.

内容) 4書からなり, ①頭部 (34章), ②胸腹部 (46章), ③生殖器 (22章), ④熱病 (33章).

出版) Pavia, 1485; Venezia, 1495, 1497; Lyon, 1586.

著者) スペインで生まれ, モンペリエ大学で医学を学んだのち, バルセロナを中心に活動したが, 1289年から10年間はモンペリエ大学での教育と著述に専念し, 1300年以降は大学を離れフランス, スペイン, イタリアの各地を訪れた.

7) ベルナルドゥス『医学の百合』(1330) Bernard de Gordon (c. 1258– before 1330): Practica seu Liliium medicinae.

Bernard de Gordon. Omnium aegritudinum a vertice ad calcem: opus praeclarissima quod Liliium medicinae appellatur, nunc denuo ab omnibus mendis, quibus scatebat, repurgatum, & septe particulis distributum, ut quarta indicabit pagina. Parisiis: apud Ioannem Foucherium; 1542. / 8° (17×11 cm), 472 l.

内容) 7部からなり, ①熱病 (31章), ②脳機能 (31章), ③頭部 (27章), ④胸部 (13章), ⑤胃腸 (21章), ⑥肝, 脾, 腎 (16章), ⑦生殖器 (24章).

出版) Napoli, 1480; Ferrara, 1486; Lyon, 1491, 1550, 1559, 1574; Sevilla, 1495; Venezia, 1496, 1498, 1521; Toledo, 1513; Paris, 1542; Frankfurt am Main, 1617.

著者) フランス, モンペリエ大学の医師で, 1283年から大学で医学を教え, 多数の著作を著した.

- 8) ガッデステン『イギリスのバラ』(1361) Gaddesden, John (c. 1280–1361): *Rosa anglica*.
 Gaddesden J. *Rosa anglica practica medicine a capite ad pedes*. Papiæ: J. A. Biretta; 1492. / Folio, 173 l.
 内容) 5書からなり, ①熱病, ②全身の疾患, ③外部の疾患(眼, 耳, 鼻, 口, 外科), ④個別疾患, ⑤投薬法.
 出版) Pavia, 1492, 1499; Venezia, 1502, 1516; Augsburg, 1595.
 著者) イギリス, オックスフォード大学で医学と神学を修め, 医師として活動した.
- 9) ヴァレスクス『実地』(1418) Valescus de Taranta (fl.1380–1418): *Practica*.
 Valescus. *Practica valesci de Tharanta, que alias philonium dicitur*. [Venetiis, Impensis & cura Petri Liechtensteyn impressum; 1502]. / Folio (33×21 cm), 209 l.
 内容) 本論は7書からなり, ①頭部(25章), ②眼・耳・鼻・口(75章), ③胸部(20章), ④胃腸(38章), ⑤肝臓・脾臓・腎臓(27章), ⑥生殖器(24章), ⑦熱病(17章). 伝染病論(10章). 膿瘍論(38章).
 出版) Lyon, 1490, 1500/01, 1501, 1516; Venezia, 1502, 1521.
 著者) ポルトガルの医師, モンペリエで医学を学び, いくつかの医学書を著した.
- 10) コンコレギオ『医学新実地』(1438) Concorreggio, Johannes de (1380–1438): *Practica nova medicine*.
 Concorreggio Jd. *Practica Noua medicine Joannis de concoregio Mediolanensis Lucidarium et Flos florum medicine nuncupata. Summula eiusdem de curis februm sensum hodiernum modum et vsum compilata*. Papia: Jacobus de Burgofranco; 1509. / Folio, 111 l.
 内容) 4論からなり, ①頭部(94章), ②胸部(12章), ③腹部(24章), ④生殖器(15章).
 出版) Venezia, 1501; Pavia, 1509, 1515.
 著者) イタリア人の医師で, ボローニャとモンペリエで医学を教えた.
- 11) サヴォナローラ『医学実地』(1468), 『熱病典範』(1468) Savonarola, Michele (1385–1468): *Practica medicinae. Canonica de febris*.
 Savonarola M. *Practica medicinae; sive de aegritudinibus*. Venetiis: Bonetus Locatellus; 1497. / Folio (32×21 cm), 276 l.
 内容) 6論からなり, 第1論: 治療方法, 第2論: 非自然的物事, 第3論: 食事, 第4論: 単純・複合医薬, 第5論: 解毒薬, 第6論: 体部の疾患(22章) ①頭部, ②神経, ③眼, ④耳, ⑤鼻, ⑥口, ⑦歯, ⑧歯肉と口唇, ⑨咽喉, ⑩胸と肺, ⑪心臓, ⑫乳房, ⑬胃, ⑭肝臓, ⑮胆嚢と脾臓, ⑯腸, ⑰肛門, ⑱腎臓, ⑲膀胱, ⑳男性生殖器, ㉑女性生殖器, ㉒体肢.
 出版) Venezia, 1486, 1497, 1518, 1519, 1547, 1559, 1560.
 Savonarola M. *Canonica de febris*. Bononiae: Dionysius Bertochus; 1487. / Folio, 122 l.
 内容) 15章からなり, ①定義, ②原因, ③徴候, ④治療, ⑤~⑱熱病各論.
 出版) Bologna, 1487; Venezia, 1496. 『脈, 尿, 排泄について (De pulsibus, urinis et egestionibus)』(1487) と合冊し『実地規範 (Practica canonica)』という表題で Venezia, 1517, 1552, 1561, 1563; Lyon, 1560, 1562.
 著者) イタリア人の医師で, バドヴァ大学で医学を学び, バドヴァ大学とフェラーラ大学で教授を務めた. フィレンツェで宗教改革を行い火刑に処せられたサヴォナローラ(1452–1498)は孫にあたる.

(B) 1500～1630年頃の医学実地書

- 12) シャンピエ『医学新実地』(1509) Champier, Symphorien (1472–1539): *Practica nova in Medicina*.
 Champier S. *Practica nova in medica ... de omnibus morborum generibus ex traditionibus grecorum, latinorum, arabum...*; Item ejusdemque aggregatoris liber unus de omnibus februm generibus. Lugduni: [s.n.]; 1509. / 8° (18×12 cm), 155 l.
内容 5書と1論からなる。5書：①総論(20章)、②頭部(15章)、③胸部(7章)、④腹部(8章)、⑤泌尿生殖器と皮膚(4章と補遺)。1論：熱病(11章)。
出版 Lyon, 1509, 1517; Venezia, 1515, 1522.
著者 フランスの医師、モンペリエで医学を学び、ロートリンゲンのアントン公に長らく仕えた後、1520年からリヨンで開業して成功を取めた。医学および歴史について多数の著作を著したことでよく知られている。
- 13) ベネデッティ『頭から足まですべての疾患』(1512) Benedetti, Alessandro (1430?–1512): *Omnium a vertice ad calcem morborum*.
 Benedetti A. *Omnium a vertice ad calcem morborum signa, causae, indicationes & remediorum compositiones utendique rationes, generatim libris XXX conscripta. Praeterea, Aphorismorum lib. I. De pestilentiae causis, praeservatione, & auxiliorum materia lib. I. Humani corporis anatome, tractata lib. V.* Basileae: per Henricum Petrum; 1539. pp. 1–1114 / 8° (19×13 cm)
内容 30書からなり、頭頸部の疾患(8書)、胸部の疾患(2書)、腹部の疾患(11書)、泌尿生殖器の疾患(6書)、体肢の疾患(2書)、処方(1書)。
出版 Basel, 1539. “De re medica”の表題でBasel, 1549.
著者 イタリアの医師、パドヴァ大学で医学を学び教え、ヴェネツィアで開業した。 ”*Historia corporis humani; sive, Anatomice*” (1502) が解剖学史上で特筆される。
- 14) ヴィットリ『医学実地』(1520) Vittori, Leonello (1450–1520): *Practica medicinalis*.
 Vittori L. *Practica medicinalis ... Liber de medendis morbis membrorum omnium totius corporis humani, nunquam antea in lucem aeditus.* Ingolstadii: ex officina typographica Alexandri Weissenhorn; 1545. / 4° (20×15 cm), 187+107 l.
内容 「疾患の治療(De medendis morbis)」は77章からなり、脳機能(14章)、頭部(4章)、胸部(8章)、腹部(21章)、鼓脹と流出(13章)、肛門(6章)、泌尿生殖器(10章)、関節(1章)。「子宮の疾患概論」6章、「熱病について断片」16章。
出版 Ingolstadt, 1545; Lyon, 1546, 1547, 1554, 1561, 1562, 1574; Venezia, 1546, 1553.
著者 イタリアの医師、ボローニャ大学を卒業し、1473年に論理学と哲学と医学の教授になった。アラビア医学者による原理の支持者であり、最初期の小児医学書 ”*De aegritudinibus infantum tractatus*” (1544) を著している。
- 15, 16) フックス『人体各部の病気の治療、頭先から足底まで熱病を含む4書』(1539), 『人体全体とその内部と外部の障害の治癒5書』(1543) Fuchs, Leonhart (1501–1566): *De medendis singularum humani corporis partium a summo capite ad imos usque pedes passionibus ac febris libri quatuor. De sanandis totius humani corporis ejusdemque partium tam internis quam externis malis libri quinque.*
 Fuchs L. *De medendis singularum humani corporis partium a summo capite ad imos usque pedes passionibus ac febris libri quatuor, nunquam antea in lucem editi.* Basileae: in officina Roberti Winter; 1539. / 4°

(21×14 cm), 314 pp.

内容) 4書からなり, ①頭部の疾患(31章), ②胸部の疾患(15章), ③腹部と生殖器の疾患(54章), ④熱病(10章).

出版) Basel, 1539; Paris, 1539; Venezia, 1541.

Fuchs L. De sanandis totius humani corporis ejusdemque partium tam internis quam externis malis libri quinque. Parisiis: apud Carolam Guillard; 1543. / 8° (18×12 cm), 199 l.

内容) 5書からなり, ①頭部の疾患(58章), ②胸部の疾患(18章), ③腹部と生殖器の疾患(66章), ④熱病(12章), ⑤炎症と発疹(16章).

出版) Paris, 1543, 1546; Lyon, 1547.

著者) ドイツ, チュービンゲン大学の医学教授で, アヴィセンナの『医学典範』に代わるものとして, ヒポクラテスとガレノスに依拠した体系的で簡明な医学書を多数著した. とくに葉草書”De historia stirpium”(1542)は多数の図版を添えて大成功を収めた.

17) シルヴィウス『ほぼすべての内部疾患治療方法概要』(1545) Sylvius, Jacobus [Jacques Dubois] (1478–1555): Morborum internorum prope omnium curatio brevi methodo comprehensa.

Sylvius J. Morborum internorum prope omnium curatio brevi methodo comprehensa : ex Galeno praecipue, & Marco Gattinaria. Parisiis: apud Jacobum Gazellum; 1545. / 8° (17×11 cm), 96 l.

内容) 72項目からなり, 頭部(22項目), 胸部(9項目), 腹部(20項目), 泌尿生殖器(15項目), 他の疾患(6項目).

出版) Paris, 1545, 1549, 1554; Lyon, 1548, 1554; Venezia, 1548, 1549. “Ratio medendi morbis internis prope omnibus”の表題で Lyon, 1549; Genova, 1620.

著者) フランスの医師で人文学者, モンペリエ大学で医学を学び, 1532年からパリで教師となり, 1536年から大学医学部で解剖学を教えた. 解剖学に造詣が深く, ヒポクラテスとガレノスの著作についての研究と著作を行った.

18) モントゥ『医学実地』(1560) Monteux, Jérôme de (ca. 1495–1560): Practica medica.

Monteux Jd. Practica medica a doctis viris diu desiderata, & nunc primum in lucem edita, in sex partes divisa. Venetiis, Apud Variscos; 1626. / 4° (21×15 cm), [36]+200+339 pp.

内容) 6部からなり, ①各部の疾患(3書: 頭部, 胸部, 腹部), ②熱病, ③小児の熱病, ④体表の疾患, ⑤治療法, ⑥浄化薬.

出版) Venezia, 1626

著者) フランスの医師, モンペリエ大学で医学を学び, リヨンで開業して, 医学と外科学の著作を多数著した.

19) ルランド『新医学実地』(1560) Ruland, Martin der Ältere (1532–1602): Medicina practica recens et nova.

Ruland M. Medicina practica recens et nova continens omnes totius humani corporis morbos, per alphabeticum ordinem collectos. Rothomagi: Ioannis Berthelin; 1560. / 8° (18×12 cm), 175 pp.

内容) ABC順.

出版) Rouen, 1560, 1650; Strasbourg, 1564, 1567; Hannover, 1610; Frankfurt am Main, 1625.

著者) ドイツの医師であり錬金術師で, ラウインゲンのギムナジウムで教えた. パラケルズスの学説を継承して, 多数の著作を著した.

20) ヴェットーリ『大実地』(1561) Vettori, Benedetto (1481–1561): Practicae magnae.

Vettori B. Practicae magnae ... de morbis curandis, ad tyrones, tomi duo. Venetiis, Apud Vincentium Valgrisiun;

1562. / Folio (33×22 cm), 316 pp.

内容) 2部からなり, ①頭部(頭部, 眼, 耳, 鼻, 口と舌, 歯と舌), ②胸部.

出版) Venezia, 1562

著者) イタリアの医師, ボローニャで医学を学び, イタリア各地の大学に呼ばれて教え, 医学の著作を多数著した.

- 21) ロンドレ『人体全疾患治療法』(1566) Rondelet, Guillaume (1507–1566): *Methodus curandorum omnium morborum corporis humani*.

Rondelet G. *Methodus curandorum omnium morborum corporis humani: in tres libros distincta. Ejusdem De dignoscendis morbis. De febribus. De morbo Italico. De internis & externis. De pharmacopolarum officina. De fucis. Omnia nunc in lucem castigatius edita.* Parisiis: Guliel. Rovillum; 1573. / 8° (18×12 cm), 328+335 l.

内容) 第1巻は3書からなり, ①頭部の疾患(76章), ②胸部の疾患(28章), ③腹部の疾患(87章). 第2巻は病気の診断法(24章), 熱病の治療(1書), イタリア病(1書), 内用薬, 外用薬, 薬局方, 化粧薬の著作を含む.

出版) Paris, 1567, 1573, 1574, 1575; Lyon, 1575, 1586, 1601; Frankfurt am Main, 1592; Genova, 1609.

著者) フランスの医師で博物学者. モンペリエ大学で医学を学び, 1545年に同大学の教授になり, 枢機卿の侍医を務め, 1556年に同大学の総長となった. 解剖学の造詣が深く, また魚類の博物学書が有名である. 『人体全疾患治療法』は, 弟子のジュベールの手で出版された.

- 22) ジュベール『医学実地最初の3書』(1572) Joubert, Laurent (1529–1582): *Medicinae practicae priore libri tres*.

Joubert L. *Medicinae practicae priores libri tres.* Lugduni: apud Joannem Gregorium; 1572. / 8° (15×8 cm)

内容) 3書からなり, ①各臓器の熱い病気の治療(9章), ②熱病の治療(16章), ③熱病の症状の制御と抑制(26章)

出版) Lyon, 1572, 1575, 1577.

著者) フランス, モンペリエ大学の16世紀で最も著名な医師. モンペリエ大学で医学を学び, ロンドレの知己を得て教授になった. フランス王妃および国王の侍医も勤めた. 多数の著作を著したが, 学問的にも文章の流麗さでも傑出していた.

- 23) フェーネ『医学実地』(1573) Feynes, François (?–1573): *Medicina practica*.

Feynes F. *Medicina practica: in quatuor libros digesta.* Lugduni, Sumpt. Joannis Antonii Hugueta, & Marci Anton. Ravaud; 1650. / 4° (24×17 cm), [16]+740+[46] pp.

内容) 4書からなり, ①熱病(18章), ②頭部(6節, 53章), ③胸部(2節, 10章), ④腹部(9節, 66章).

出版) Lyon, 1650

著者) フランス, モンペリエ大学の医学教授で, 残された医学実地の手稿が没後に出版された.

- 24) ブルエレ『簡明理論経験医学実地』(1579) Bruele, Gualtherus (fl. 1579): *Praxis medicinae theorica et empirica familiarissima*.

Bruele G. *Paxis medicinae theorica et empirica familiarissima ... In qua pulcherrima dilucidissimaque ratione morborum internorum cognitio eorundemque curatio traditur.* Antverpiae: apud Christophorum Plantinum; 1585. / Folio (32×21 cm), 186 pp.

内容) 46疾患を扱い, 脳機能(13項), 頭部感覚器(4項), 呼吸器(6項), 心臓(2項), 胃(4項), 肝臓(4項), 腸(3項), 腎臓と肛門(4項), 子宮(3項), 関節と疫病(3項).

- 出版) Antwerp, 1579, 1581, 1585; Leiden, 1585, 1589, 1599, 1612, 1628, 1647; Venezia, 1602. 英語訳 1632, 1639, 1648.
 著者) ベルギーの医師で数学者である.
- 25) ヴェイガ『医学実地』(1579) Veiga, Tomás Rodrigues da (1513–1579): *Practica medica*.
 Veiga TRd. *Practica medica. Cui accessit ejusdem auctoris tractatus de fontanellis, & cauteriis. Opus posthumum [sic] nunc primum in lucem editum.* Ulyssipone, Ex typographia Joannis a Costa senioris, sumptibus Josephi Ferreira; 1668. / 4° (22×15 cm), 351 pp.
 内容) 68章からなり、頭部(33章)、胸部(6章)、腹部(12章)、生殖器と体肢(17章).
 出版) Lisbon, 1668.
 著者) ポルトガル、コインブラ大学の医学教授である.
- 26) フォーリスト『医学観察と治療』(1584–97) Foreest, Pieter van (1522–1597): *Observationum et curationum medicinalium*.
 Foreest Pv. *Observationum et curationum medicinalium ac chirurgicarum, opera omnia.* Francofurti, Typis Hartmanni Palthenii, sumptibus heredum D. Zachariae Palthenii; 1623. / Folio (32×22 cm), 776 pp.
 内容) 医学理論と実地 32書(熱病7書、頭部8書、胸部2書、腹部8書、生殖器7書)、外科9書.
 出版) Antwerp, Leiden, Francfurt am Main, 1584–1611; Francfurt am Main, 1619, 1623, 1634, 1660; Ruen, 1653.
 著者) ベルギーの医師、ルーヴァンを手始めにヨーロッパ各地の大学で医学を学び、ポローニャ大学で学位を得た。デルフトで開業して高い名声を得た.
- 27) ドドネウス『医学実地』(1585) Dodonaeus, Rembert (1516–1585): *Praxis medica*.
 Dodonaeus R. *Praxis medica.* Amsterdami, Impensis Henrici Laurentii; 1616. / 8° (17×11 cm), 618 pp.
 内容) 2書からなり、①熱病(36章)、②各部の疾患(頭部21章、胸部12章、腹部37章).
 出版) Amsterdam, 1616.
 著者) オランダ/ベルギーの医師。ルーヴァン大学で医学を学び、神聖ローマ皇帝マクシミリアン2世の医師になり、アントワープで開業したが、高齢でライデン大学の医学教授に招かれた.
- 28) カピヴァッキオ『医学実地すなわち人体のすべての疾患の診断と治療の方法』(1589) Capiavaccio, Girolamo (1523–1589): *Practica medicina seu methodus cognoscendorum et curandorum omnium humani corporis affectuum*.
 Capiavaccio G. *Practica medicina; seu, Methodus cognoscendorum et curandorum omnium humani corporis affectuum.* Francofurti: ex officina Paltheniana, sumptibus Petri Fischeri; 1594. / 4° (23×18 cm), 1080 pp.
 内容) 7書からなり、①頭部および付属する部分の疾患(53章)、②胸部、肺、心臓の疾患(9章)、③腹部の部分の疾患(35章)、④子宮の疾患(11章)、⑤関節病と性病(1章+12章)、⑥熱病(31章)、⑦中毒(12章).
 出版) Francfurt am Main, 1594; Lyon, 1597; Venezia, 1597, 1598, 1599, 1601.
 著者) イタリアの医師、1552年からパドヴァ大学の教授を務め、1576年にヴェネツィアでの疫病に対処した.
- 29, 30) ポルヴェリノ『今日の用法による人体各疾患治療著作』(1589), 『疾患医学実地』(1589) Polverino, Giovanni Girolamo (fl. 1586–1589): *De curandis juxta hodiernum usum, singulis humani corporis morbis, opus. Medicina practica, morborum*.
 Polverino GG. *De curandis juxta hodiernum usum, singulis humani corporis morbis, opus; sive Praxis accurata brevis, dilucida, & absoluta methodo explicata, ac tradita nunc primum in lucem edita ... Venetiis: apud Jac.*

Ant. Somaschum, & Paulum Venturinum; 1600. / Folio (33×22 cm), 278 pp.

内容) 102章からなり、頭部の疾患(第1～34章)、胸部の疾患(第35～50章)、腹部の疾患(第51～75章)、泌尿器の疾患(第76～85章)、生殖器の疾患(第86～99章)、その他の疾患(第100～102章)。

出版) Venezia, 1600.

Polverino GG. Medicina practica, morborum; tam universalium, quam particularium, accuratam plenamque curationem continens. editio septima. Lugduni Batavorum: Rrancisci Hackii; 1649. / 8° (19×12 cm), 747 pp.

内容) ①熱病(19章)、②102章(『今日の用法による人体各疾患治療著作』(1600)と同じ)。

出版) Leiden, 1649.

著者) イタリアの医師、ナポリの生まれでナポリ大学の教授を務め、多数の著作を著した。

31) マルカード『内部疾患理論経験実地』(1589) Marquard, Johannes (fl. 1592): *Practica theorica empirica morborum interiorum*.

Marquard J. *Practica theorica empirica morborum interiorum, e praelectionibus ... collecta*. Spirae Nemetum, Apud Bernardum Albinum; 1592. / 8° (17×11 cm), 460 pp.

内容) 98項目からなり、頭部(40項目)、胸部(9項目)、腹部(33項目)、生殖器(6項目)、四肢(10項目)。

出版) Speyer, 1589, 1592; Frankfurt am Main, 1610.

著者) オーストリア、ウィーンの医師である。

32, 33) フランボアジエル『医学典範3書』(1595), 『疾患全種類を方式的に治療するための医学法則』(1608) Framboisière, Nicolas Abraham De la (1560–1636): *Canonum medicinalium libri tres. Loix de médecine pour procéder méthodiquement à la guérison des maladies, pratiquées sur toutes sortes de maladies*.

Framboisière NAdl. *Canonum medicinalium libri tres. quibus aphoristica methodus medendi affectibus corporis partium, primo animalium, secundo vitalium, tertio naturalium continetur*. Parisiis: Michaellem Sonnum; 1595. / 8° (15×8 cm), 196 l.

内容) 3書からなり、①動物的部分(頭部)の疾患(16題)、②生命的部分(胸部)の疾患(7題、第7題は熱病)、③自然的部分(腹部)の疾患(14題)。

出版) Paris, 1595.

Framboisière NAdl. *Les oeuvres de Nicolas Abraham de La Framboisière*, in 2 vols. Paris: Vve M. Orry; 1613, pp. 327–866. / Folio (30×20 cm)

内容) 7書からなり、①治療法、②脳と関連部位、③感覚器、④心臓と関連部位、⑤肝臓と関連部位、⑥関節、⑦腫瘍、⑧外傷と潰瘍、⑨骨折と脱臼。

出版) Paris, 1608.

著者) フランス、ランス大学医学部の教授で、国王ルイ13世の侍医を務めた。

34) マッサリア『医学実地』(1598) Massaria, Alessandro (1510–1598): *Practica medica*.

Massaria A. *Practica medica, seu praelectiones academicae, continentes methodum ac rationem cognoscendi et curandi plerosque omnes totius humani corporis morbos, ad natiuam ac genuinam divini Hippocratis et scientissimi Galeni mentem vere optimeque institutam*. Francorort: Nicolai Bassaei; 1601. / 4° (25×18 cm), 968 pp.

内容) 8書からなり、①頭部の疾患(39章)、②胸部の疾患(9章)、③腹部に含まれる胃、肝、脾、腸の疾患(24章)、④女性の疾患(13章)、⑤熱病(31章)、⑥フランス病(1章)、⑦浄化薬(40章)、

⑧相談 (1章).

出版) Frankfurt am Mein, 1601; Tarvisio, 1603, 1607; Venezia, 1603, 1613, 1618, 1622, 1642; Lyon, 1622.

著者) イタリアの医師, パドヴァ大学で解剖学と医学を学び, 故郷のヴィチェンツァで開業して解剖学を教え, 1576年の疫病に対処して "De peste libri duo" (1579) を著し, 1587年にパドヴァ大学の教授になった.

35) バステリ『医学鏡』(1599) Bastelli, Andrea (?-?): *Speculum medicinae eximiophi losopho*.

Bastelli A. *Speculum medicinae eximiophi losopho*. Madriti: Licentiatum Varez à Castio; 1599. / 4° (21×16 cm), 208 l.

内容) 6書からなり, ①脈, ②尿, ③食事, ④瀉血, ⑤浄化薬, ⑤熱病, ⑥各部の疾患 (頭から足の順に20疾患).

出版) Madrid, 1599.

著者) スペインの医師, ナポリ王国のメルフィで開業し, マドリッドに移ったと思われる.

36) メルクリアーレ『医学実地』(1601) Mercuriale, Girolamo (1530-1606): *Medicina practica*.

Mercuriale G. *Medicina practica; seu, De cognoscendis, discernendis, & curandis, omnibus humani corporis affectibus, earumque causis indagandis, libri V*. Francofurti ad Moenum: In officina Joannis Theobaldi Schönwetteri; 1601. / Folio, (32×21 cm), 652+[39] pp.

内容) 5書からなり, ①頭部 (41章), ②胸部 (11章), ③腹部 (39章), ④四肢と梅毒 (3+6章), ⑤熱病 (17章).

出版) Frankfurt am Main, 1601, 1602; Lyon, 1617, 1618, 1623; 『パドヴァ講義 (Praellectiones Patavinae)』の表題で Venezia, 1603, 1606, 1617, 1627.

著者) イタリアの医師, ボローニャとパドヴァで医学を学び, ローマに出て研究を重ねてスポーツや医学についての著作を著した. 神聖ローマ皇帝マクシミリアン2世の宮廷に招かれ, パドヴァ大学の教授になった.

37) ポイツァー『実地すなわち内部疾患治療方法』(1602) Peucer, Caspar (1525-1602): *Practica seu methodus curandi morbos internos*.

Peucer C. *Practica seu methodus curandi morbos internos, cum generalis, tum particulis, tradita primum & praelecta a praeclarissimo*. Francoforti: Ioannis Berneri; 1614. / 8° (17×11 cm), 695 pp.

内容) 総論 (24項目), 各論22章 (頭部8章, 胸部3章, 腹部8章, 生殖器2章, 関節1章).

出版) Frankfurt am Main, 1614.

著者) ドイツ, ヴィッテンベルク大学で数学, 天文学, 医学を学び, 数学と医学の教授になった. メランヒトンの娘婿になり, 指導的なプロテスタントでもあった.

38) プラッター『実地』(1602-1608) Platter, Felix (1536-1614): *Praxeos*.

Platter F. *Praxeos seu de cognoscendis, praedicendis, praecauendis, curandisq[ue] affectibus homini incommodantibus*. in 3 vols. Basileae: typis Conradi Waldkirchii; 1609. / 8° (19×12 cm), 679+972+1028 pp.

内容) 3編からなる. 第1編は機能の障害を扱い2書からなり, ①感覚の障害 (8章) と②運動の障害 (19章). 第2編は痛み (17章). 第3編は2書からなり, ①身体の瑕疵 (5章) と排出の瑕疵 (16章).

出版) Basel, 1602-08 (1602, 1603, 1608), 1609, 1625, 1656, 1736.

著者) スイスの医師, モンベリエで医学を学び, バーゼルで学位を得て, 大学で医学実地を教え, 市医となった. 解剖学と医学実地の著作がある.

- 39) チェザルピノ『普遍医学技芸実地』(1606) Cesalpino, Andrea (1519–1603): *Praxis universae artis medicae*.

Cesalpino A. *Praxis universae artis medicae, generalium aequae, ac particularium humani corporis praeter naturam affectuum dignotionem, iudicium & curam omnium uberrimè complectens, summo labore, et studio concinata, & unum recenter in volumen conjuncta*. Tarvisii: Sumptibus Roberti Meietti; 1606. / 8° (15×10 cm), 715 pp.

内容) 8書からなり、①総論 (16章)、②熱病 (32章)、③中毒 (53章)、④梅毒 (20章)、⑤頭部 (53章)、⑥胸部 (23章)、⑦腹部 (32章)、⑧生殖器 (36章)。

出版) Tarvisio, 1606.

著者) イタリアの医師、ピサ大学で医学を学び、ピサとローマで医学を教え、教皇クレメンス8世の侍医になった。医学と植物学の著作を著した。

- 40) サッソニア『実地著作』(1607) Sassonia, Ercole (1551–1607): *Opera practica*.

Sassonia E. *Opera practica*. Patavii: Apud Franciscum Bolzettam; 1639 / Folio (32×23 cm), 276+172+44+30+60 pp.

内容) 本論は3節からなり、①頭部と肺 (30章)、②心臓と腹部内臓 (34章)、③女性生殖器 (30章)、熱病 (38章)、鬱病 (21章)、梅毒 (40章)、拍動 (24章)、尿 (26章)。

出版) Padova, 1639, 1658, 1681.

著者) イタリアの医師、パドヴァ大学で医学を学んで、医学実地の教授になり、多数の著作を著した。

- 41) デュシェーヌ『教義錬金的医学技芸』(1609) Du Chesne, Joseph (ca. 1544–1609): *Ars medica dogmatico hermetica*.

Du Chesne J. *Quercetanus redivivus, hoc est Ars medica dogmatico hermetica, ex scriptis Josephi Quercetani ... tomis tribus digesta: quorum I. Ars medica mediatrix, II. Ars medica auxiliatrix, III. Ars medica practica*. Francofurti: Apud Joannem Beyerum; 1648. / 4° (23×18 cm), 226, 923, 267 pp.

内容) 3巻からなる。第1巻 (生理学, 病理学, 治療学), 第2巻 (健康論, 薬剤学, 外科学), 第3巻 : 実地 11論 (疫病, 肺炎, 癩癩, 卒中, 眩暈, 麻痺, 若年消耗, 梅毒, 尿結石, 関節炎, 疼痛)。

出版) Frankfurt am Main, 1648.

著者) フランス出身の医師、ドイツのいくつかの大学で医学を学んでバーゼルで学位を得た。パラケルスス説の支持者で、リヨン、カッセルを経てジュネーブで市民権を得て、外交官として活躍した。

- 42) フォンテーヌ『人体疾患治療実地』(1611) Fontaine, Jacques (?–1621): *Practica curandorum morborum corporis humani*.

Fontaine J. *Practica curandorum morborum corporis humani, in quatuor libros distincta*. Parisiis: apud Adrianum Beys; 1611 / 8° (18×11 cm), 572 pp.

内容) 4書からなり、①頭部と脳機能の疾患 (33章)、②肺と心臓など胸部の疾患 (16章)、③胃腸、肝臓、腎臓、生殖器など腹部の疾患 (46章)、④熱病 (13章)。

出版) Paris, 1611, 1612.

著者) フランス、エクス・アン・プロヴァンスの医学協会で教授を務め、後にパリ大学医学部の教授になった。

- 43) ファブリキウス『医学実地』(1619) Fabricius ab Aquapendente (1533–1619): *Medicina practica*.

Fabricius aA. *Medicina practica. Necnon Aemilii Campilongi ... tractatus De vermibus; De uteri affectibus; deque morbis cutaneis*. Parisiis: Apud Clodoueuum Cottard; 1634. / 4° (24×18 cm), [12]+799+[80] pp.

内容) 3書からなり、①頭部 (62章)、②胸部 (14章)、③腹部 (53章)。第4書としてカンボロンゴ

(Campolongo, Emilio; 1550-1604) による3論文 (①寄生虫, ②子宮疾患, ③皮膚疾患など).

出版) Paris, 1634.

著者) イタリアの解剖学者, 医師. パドヴァ大学の教授で解剖学と外科学を教え, 解剖学と発生学の研究で名高い.

44) ポッペ『医学宝鑑』(1628) Poppe, Johann (1577-?): Thesaurus medicinae.

Poppe J. Thesaurus medicinae; oder, Chymischer Artzney Schatz ... Alles ausz eigener erfahrner Heimlichkeit, oder ausz andern bewehrten Autoribus, fürnemlich ausz Theophrasto, zusammen gelesen. Leipzig: in Vorlegung Zachariae Schürers etc.; 1628. / 4° (20×17 cm), 812 pp.

内容) 3部からなり, ①頭部の疾患 (35項目), ②胸腹部の疾患 (45項目), ③体肢の疾患 (79項目).

出版) Leipzig, 1628.

著者) ドイツ, コーブルクの化学者で一般向けの医学書をいくつかドイツ語で著している.

(C) 1630～1710年頃の医学実地書

45) ゼンネルト『熱病について4書』(1619), 『医学実地』(1628-1635) Sennertus, Daniel (1572-1637):

De febris libri IV. Practicae medicinae.

Sennert D. De febris libri IV. Editio Secunda. Wittebergae: Sumtibus viduae & haered. Zachariae Schüreri Senioris; 1628. / 4° (23×19 cm), 704 pp.

内容) 4書からなり, ①熱病一般と一過性熱, ②腐敗熱, ③消耗熱, ④疫病・疫病熱・悪性熱.

出版) Wittenberg, 1619, 1628; Lyon, 1627; Paris, 1633; Venezia, 1641; Genève, 1647; Frankfurt am Main, 1653.

Sennert D. Practicae medicinae liber primus [-sextus]. Wittebergae: sumtibus viduae et haered. Zachariae Schureri senioris; 1628-1635. / 4° (21×16 cm), ① 992, ② 439, ③ 999, ④ 533+96, ⑤ 614, ⑥ 447 pp.

内容) 6書からなり, ①頭部 (3部), ②胸部 (4部), ③腹部 (10部), ④女性と小児 (3部+2部), ⑤表在性疾患 (6部), ⑥隠れた疾患 (9部).

出版) Wittenberg, 1628-1635, 1636-1654, 1654-1662 (book 1-4); Lyon, 1629-1636; Paris, 1632-35 (book 1-5).

著者) ドイツの医師, ヴィッテンベルクで医学を学び, 同大学の教授となった. 化学を推進して薬学の発展に寄与し, 理論と実地の両面にわたって長大な著作を著し, 当時の医学および哲学に少なからぬ影響を与えた.

46) コルテシ『医学実地』(1634) Cortesi, Giovanni Battista (1553/4-1634): Practicae medicinae.

Cortesi GB. Practicae medicinae. in 3 vols., Messanae: Petri Breae; 1635. / Folio (32×22 cm), 605, 456, 502 pp.

内容) 3部からなり, ①頭部 (46章) と胸部 (8章), ②腹部 (42章), ③生殖器と女性 (20章) と熱病 (24章).

出版) Messina, 1635.

著者) イタリアの医師, ボローニャ出身で床屋外科医として名声を上げ, メッシーナ大学の解剖学と医学実地の教授になった.

47) ザクトゥス『医学実地驚異』(1637) Zacutus, Lusitanus (1575-1642): Praxis medica admiranda.

Zacutus L. Praxis medica admiranda: in qua, exempla monstrosa, rara, nova, mirabilia, circa abditas morborum

causas, signa, euentus, atque curationes exhibita, diligentissime proponuntur. Lugduni: Ioannem-Antonium Huguetan; 1637. / 8° (18×12 cm), 634 pp.

内容) 3書からなり, ①頭部と精気部分の疾患 (137 観察), ②自然部分, 生殖部分, 腹部の疾患 (180 観察), ③熱病とその他の疾患 (149 観察)

出版) Lyon, 1637.

著者) オランダの医師, ポルトガルのリスボンで生まれ, サラマンカとコインブラで医学を学び, リスボンで開業して成功を取めたが, 1625年にユダヤ人追放令によりアムステルダムに移り, 開業して多数の著作を著した.

- 48) リヴィエール『医学実地』(1641), 『熱病の治療法』(1645) Rivière, Lazare [Riverius, Lazarus] (1589–1655): Praxis medica. Methodus curandarum februm.

Rivière L. Praxis medica. 2nd ed., Lutetiae Parisiorum: sumptibus Olivarii de Varennes; 1644. / 8° (18×11 cm), 247 pp.

内容) 10書からなり, ①頭部の疾患 (12章), ②胸部の疾患 (6章), ③心臓の疾患 (3章), ④胃の疾患 (11章), ⑤腸の疾患 (11章), ⑥肝臓の疾患 (6章), ⑦脾臓の疾患 (5章), ⑧腎臓と膀胱の疾患 (9章), ⑨女性の疾患 (24章), ⑩関節の疾患 (2章).

出版) Paris, 1641, 1644, 1647; Lyon, 1649, 1653; Gouda, 1649; Den Haag, 1651, 1658, 1664; Basel, 1663; Genève, 1696. 英語訳が1655年以後に3版. "Institutionum medicinae" との合冊版がLyon, 1657, 1660, 1674; Leipzig, 1657, 1660. 合冊版のフランス語訳が1682年に刊行. ラ・カルメト (La Calmette, François de) による改訂版が1690年以後に7版, その英語訳が1706年以後に2版.

Rivière, L: Methodus curandarum februm. Lutetiae Parisiorum: Olivarii de Varennes; 1645 / 8° (17×11 cm), 247 pp.

内容) 3節からなり, ①単純熱 (3章), ②腐敗熱 (6章), ③悪疫熱 (2章).

出版) Paris, 1645, 1648; Gouda, 1649; Den Haag, 1651.

著者) フランスの医師, モンペリエ大学で医学を学び, 1622年に同大学の医学実地教授になり終生勤めた.

- 49, 50) ヨンストン『普遍医学実地理念』(1644), 『実地医学普遍類聚』(1673) Jonston, Jan [Johnston, John] (1603–1675): Idea universae medicinae practicae. Syntagma universae medicinae practicae.

Jonston J. Idea universae medicinae practicae libri VIII. Amsterdami: Ludovicum Elsevirium; 1644. / 12° (13×8 cm), 759 pp.

内容) 8書からなり, ①総論 (5章), ②外部の疾患 (6章), ③熱病 (6章), ④頭部の疾患 (15章), ⑤胸部の疾患 (8章), ⑥腹部の疾患 (13章), ⑦中毒性疾患 (2章), ⑧小児の疾患 (3章).

出版) Amsterdam, 1644, 1652; Lyon, 1655; Frankfurt am Main, 1664.

Jonston, J: Syntagma Universae Medicinae Practicae Libri XIV. Vratislav: Trescherus; Ienae: Nisius; 1674 / 8° (19×11 cm), 1111 pp.

内容) 3部からなり, ①健康論 (2書), ②治療論 (5書), ③疾病論 (7書, 前著の第2～8書に相当).

出版) Wrocław, 1673, 1674.

著者) ポーランド出身の医師, ヨーロッパ各地の大学で学び, ケンブリッジとライデンで医学の学位を得た. レッシュノで開業し多数の著作を著した.

- 51) シュミッツ『医学実地必携』(1652) Schmitz, Johann Andreas (1621–1652): Medicinae practicae compendium.

Schmitz JA. Medicinae practicae compendium. Hardervici: Joannis Tollii; 1653. / 12° (14×8 cm), 243 pp.

内容) 疾患をABC順

出版) Harderwijk, 1653; Genève, 1659, 1691; Paris, 1666; Utrecht, 1682; Leiden, 1688.

著者) オランダの医師, グローニンゲン, ライデン, アンジェで医学を学び, ベルリンのブランデンブルク公の侍医, 1648年からハルデルウェイク大学の医学教授となった.

52) マイエルヌ『マイエルヌ実地』(1655) Mayerne, Théodore Turquet de (1573–1655): Praxeos Mayernianae.

Mayerne Ttd. Praxeos Mayernianae in morbis internis praecipue gravioribus & chronicis syntagma, ex adversariis, consiliis ac epistolis ejus ... concinnatum. Londini: Impensis Sam. Smith; 1690. / 8° (20×12 cm), [24]+451+[20] pp.

Mayerne Ttd. Praxeos Mayernianae ex adversariis, consiliis ac epistolis ejus summa cura ac diligentia concinnatum syntagma alterum, quatuor tractatus continens: viz. I. De febris, II. De morbis externis. III. De arthritide. IV. De lue venerea. Londini: Sam. Smith & Benj. Walford; 1695. / 8° (20×12 cm), [7]+283+[5] pp.

内容) 第1巻は3書からなり, ①頭部(19章), ②胸部(8章), ③腹部(26章), 付録(天然痘). 第2巻は4論からなり, ①熱病, ②外表, ③関節, ④梅毒.

出版) 第1巻: London, 1690; Augsburg, 1691; Genevem 1692; Lyon, 1693. 第2巻: London, 1695, 1696; Augsburg, 1695.

著者) スイス, ジュネーブ出身の医師. ジュネーブ, ハイデルベルク, モンペリエで医学を学び, パリに出て解剖学と薬剤学を教え, フランスとイギリスで王の侍医を務めた. パラケルズ説の支持者である.

53) メビウス『医学実地要約梗概』(1664) Möbius, Gottfried (1611–1664): Synopses epitomes medicinae practicae.

Möbius G. Synopses epitomes medicinae practicae. Patavii: typis Heredum Pauli Frambotti; 1667. / Folio (29×19 cm), 101 pp.

内容) 50項の要約からなり, 頭部の疾患(1~16), 胸部の疾患(17~25), 腹部の疾患(26~43), 泌尿生殖器の疾患(44~48), その他(49~50).

出版) Padova, 1667.

著者) ドイツ, イェナ大学の医学教授でブランデンブルク選帝侯の侍医を務めた.

54) グリュERING『実地医学5書』(1665) Grüling, Philipp (1593–1667): Medicinae practicae libri quinque.

Grüling P. Medicinae practicae libri quinque, in quibus non modo omnes fere corporis humani morbi describuntur, verum etiam eorum causae, signa, prognoses et curationes prolixius depinguntur. Northusae: Johannis Erasmi Hynitzsch; 1665. / 4° (21×18 cm), 601 pp.

内容) 5書からなり, ①頭部(頭部, 眼, 耳, 鼻), ②胸部(口, 肺, 心臓), ③腹部(胃, 腸, 肝臓, 脾臓, 肝と脾の症状), ④泌尿生殖器(腎臓, 膀胱, 男性生殖器, 子宮), ⑤関節・熱病・外部.

出版) Nordhausen, 1665; Leipzig, 1668, 1673.

著者) ドイツの医師, ハルツのシュトルベルクで伯爵の侍医と市長を務めた.

55) バルベッテ『バルベッテ実地』(1665) Barbette, Paul (1620–1666?): Praxis Barbettiana.

Barbette P. Praxis Barbettiana, cum notis & observationibus Frederici Deckers. Lugd. Batav: Sumptibus auctoris, prostant apud Gaasbekios; 1669. / 12° (14×9 cm), [16]+248+[56] pp.

内容) 4書からなり, ①頭部(4章), ②頸部(3章), ③胸部(3章), ④腹部(13章).

出版) Leiden, 1665; Bologna, 1669; Padova, 1676, 1681; Amsterdam, 1678, 1693; Napoli, 1717. 英語訳が London 1675.

著者) オランダの医師, シュトラスブル出身でライデン大学で医学を学び, アムステルダムで医学と外科の開業をした。人気のある医学書を多数出版した。

- 56) ロルフインク『医学の順序と方法』(1669) Rolfinck, Werner (1599–1673): *Ordo et methodus medicinae*.

Rolfinck W. *Ordo et methodus medicinae specialis consultatoriae ὡς ἐν ἀτόμῳ, continens consilia medica, ad normam veterum & novorum dogmatum adornata*. Jenae: exudebat Samuel Krebs, impensis Urbani Spaltholzii; 1669. / 4° (21×16 cm), 962 pp.

内容) 13書からなり, ①総論, ②脳, ③頭部, ④心臓, ⑤肺, ⑥胃, ⑦腸, ⑧肝臓・脾臓・腸間膜, ⑨腎臓と膀胱, ⑩生殖器, ⑪子宮, ⑫ヘルニア, ⑬関節。

出版) Jena, 1669.

著者) ドイツの医師, ライデン, オックスフォード, パリで医学を学び, パドヴァで医学の学位を得た。ヴィッテンベルク大学の解剖学教授, 次いでイエナ大学の外科学, 解剖学, 植物学の教授になり, 医化学の教授に転じた。

- 57) シルヴィウス『医学実地新理念』(1671–72) Sylvius, Franciscus [Boe, Frans de le] (1614–1672): *Praxeos medicae idea nova*.

Sylvius F. *Praxeos medicae idea nova liber primus*. Lugduni Batavorum: apud viduam Joannis Le Carpentier; 1671. / 12° (14×8 cm), 980 pp.

Sylvius F. *Praxeos medicae. liber secundus [-tertius]*. Amsterdami: Abrahamum Wolfgang; 1674. / 12° (14×8 cm), 354+471 pp.

内容) 3書からなり, ①自然機能の疾患 (58章), ②動物機能の疾患 (33章), ③生殖機能の疾患 (12章)。

出版) Leiden, 1671 (book 1); Amsterdam, 1674 (book 2, 3); Hannover, 1674, 1675. 英語訳 1675.

著者) オランダの医師, ドイツのハーナウで生まれ, ライデンで医学を学び, バーゼルで学位を得た。ハーナウとアムステルダムで開業した後, 1658年にライデン大学の医学教授になり, 医学理論と医学実地を教えた。

- 58) ロドリゲス・デ・ヒルバウ『ヴァレンシア医学実地』(1671) Rodríguez de Gilbau, Félix Julián (ca. 1625–1693): *Praxis medica Valentina*.

Rodríguez de Gilbau FJ. *Praxis medica Valentina, in gratiam tyronum scripta*. Valentiae: Typis Hieronymi Vilagrasa; 1671. / 8° (20×15 cm), [24]+605 pp.

内容) 3書からなり, ①頭部 (30章), ②胸部 (11章), ③腹部 (43章)。

出版) Valencia, 1671.

著者) スペインの医師, ヴァレンシアで生まれ, 同地の大学で医学を学び, 長年にわたり教授職にあった。

- 59) マルクグラフ『教義的実地医学先駆者』(1673) Marggraf, Christiaan (1626–1687): *Prodromus medicinae practicae dogmaticae*.

Marggraf C. *Prodromus medicinae practicae dogmaticae & vere rationalis*. Lugduni Batavoum: Arnoldi Doude; 1674. / 4° (20×15 cm), 112 pp.

内容) 疾患を扱う87表からなり, 消化 (24表), 血液と呼吸 (11表), 熱病と炎症 (16表), 体液 (13表), 分泌と尿と汗 (10表), 生殖 (13表)。

出版) Leiden, 1673, 1674, 1685.

著者) オランダの医師, フラネケルで医学を学び, ライデンに移って講師資格を得て化学と治療, 薬剤学を教えた.

60) バーネット『**实用医学宝鑑**』(1673) Burnet, Thomas (1632?-1715?): *Thesaurus medicinae practicae*.

Burnet T. *Thesaurus medicinae practicae, ex praestantissimorum tum veterum tum recentiorum medicorum observationibus, consultationibus, consiliis & epistolis, summa diligentia collectus ordineque alphabetico dispositus*. Londini: Excudebat G. R. pro R. Boulter, & prostant apud R. Brown [etc.]; 1673. / 4° (22×16 cm), [32]+931+[9] pp.

内容) ABC 順.

出版) London, 1673; Geneve, 1678, 1698; Venezia, 1687; Lyon, 1702.

著者) イギリス, エディンバラの王室侍医である.

61) ブランカールト『**新出医学実地**』(1678) Blankaart, Steven (1650-1702): *Nieuw lichtende praktyk der medicynen*.

Blankaart S. *Nieuw lichtende praktyk der medicynen, gefondeert op de gronden van de deftigste atheuren deses tijds: Nevens de hedendaagse chymia, als ook De Nederlantsche apothekers winkel*. Amsterdam: Jan Claesz ten Hoorn; 1678. / 8° (16×11 cm), 260 pp.

内容) 65章からなる(頭部19章, 胸部6章, 熱病10章, 腹部22章, 女性5章, 体肢3章).

出版) Amsterdam, 1678, 1690, 1696; Rotterdam, 1735. ラテン語版は Amsterdam, 1685. ドイツ語版は Leipzig, 1690; Hannover, 1700, 1704.

著者) オランダの医師, アムステルダムの薬剤師のもとで植物学と薬学を学び, フラネケル大学で医学を学んで, アムステルダムで医師として開業した. 多数の著書があり, とくに『ギリシャ語ラテン語医学辞典』(1679)は, 大いに人気を博した.

62) ソルバイト『**医学実地**』(1680) Sorbait, Paul (1624-1691): *Praxios medicae*.

Sorbait P. *Praxios medicae, auctae, et a plurimis typi mendis, ab ipso auctore, castigatae*. Viennae: Apud Leopoldum Voigt; [1680]. / Folio, (38×25 cm), [22]+621+[43] pp.

内容) 7論からなり, ①頭から足へ各部(頭部38章, 胸部9章, 腹部25章, 生殖器14章), ②梅毒(17節), ③熱病(17章), ④小児(32章), ⑤外科(53章), ⑥治療法(10章+106問), ⑦相談(22章).

出版) Wien, 1680.

著者) オーストリアの医師. パドヴァ大学で医学を学び, ローマで開業したが, ウィーン大学で医学理論と実地の教授になった.

63) ドレウス『**理論実地医学事典**』(1684) Dolaeus, Johann (1651-1707): *Encyclopaedia medicinae theoretico-practicae*.

Dolaeus J. *Encyclopaedia medicinae theoretico-practicae*. Francofurti ad Moenum: Friderici Knochii; 1684. / 4° (21×19 cm), 1038 pp.

内容) 6巻からなり, ①頭部(14章), ②胸部(7章), ③腹部(15章), ④熱病(10章), ⑤女性(10章), ⑥小児と幼児(15章).

出版) Frankfurt am Main, 1684; Amsterdam, 1686. 『教義的医学事典(Encyclopaedia, medica dogmatica)』の表題で Frankfurt am Main, 1691.

著者) ドイツの医師, ハイデルベルクで医学を学び, 各地で宮廷の侍医や市医を勤め, ヘッセンとカッセル方伯の侍医になった. パラケルズスとヘルメントの学説を支持した.

- 64) ギースヴァイン『医学実地便覧』(1687) Gieswein, Johannes Philippus (?–1702): *Manuale medicinae practicae*.
 Gieswein JP. *Manuale medicinae practicae continens universam simul materiam medicam*. Francofurti: Hermannum a Sande; 1687. / 8° (19×11 cm), 848 pp.
 内容) 2書からなり, ①薬剤学(4部), ②身体の病気のための薬剤(6部:外部, 内部, 頭部, 胸部, 腹部, 女性, 小児).
 出版) Frankfurt am Main, 1687.
 著者) ドイツ, フリートベルク出身の医学博士でギーセン大学の関係者である.
- 65) トッツィ『医学実地』(1688) Tozzi, Luca (1638–1717): *Medicina PRAKTIKH*.
 Tozzi L. *Medicina PRAKTIKH, quae hactenus adversus morbos adiventa sunt, luculenter & brevissime explicans*. Avenione: Iacobum Duperier; 1688. / 8° (18×11 cm), 360+387 pp.
 内容) 3論からなり, ①頭部の疾患(19項目), ②胸部の疾患(11項目), ③腹部の疾患(28項目: 消化器16, 泌尿器5, 炎症2, 熱病5).
 出版) Avignon, 1687, 1688 (1687年版の表題は『医学第2部実地 (Medicinae pars altera PRAKTIKH)』, 対応する『医学第1部理論 (Medicinae pars prior ΘΕΩΡΗΤΙΚΗ)』はLyon, 1681).
 著者) イタリアの医師, ナポリで医学を学び, ナポリでギムナジウムの医学と数学の教授になり, 1695年に教皇侍医とローマ大学教授になった.
- 66) グレーネフェルト『医学実地』(1688) Groenefeld, Johann Caspar [Groeneveldt, Jan] (fl. 1688): *Practica medica*.
 Groenefeld JC. *Practica medica, in qua non modo omnes fere corporis humani mobri describuntur, verum etiam eorum causae et curationes proponuntur*. Francofurti: Johannem Justum Erythropilum; 1688. / 8° (19×11 cm), 560 pp.
 内容) 4書からなり, ①頭部(47項目), ②胸部(21項目), ③腹部(38項目), ④熱病(25項目).
 出版) Frankfurt am Main, 1688.
 著者) オランダの医師, ユトレヒトで医学を学んで開業した. アムステルダムの碎石医の元で学んで碎石術の著作を著した.
- 67) ラ・カルメット『改新リヴェリウス』(1688) La Calmette, François de (?–?): *Riverius reformatus*.
 La Calmette Fd. *Riverius reformatus; sive, Praxis medica, methodo Riverianae non absimili, juxta recentiorum tum medicorum, tum philosophorum principia conscripta. Accesserunt tractatus de morbis mulierum; de affectibus articulorum; de peste; & de febribus*. Genevae: Apud Samuelem de Tournes; 1688. / 8° (19×11 cm), 529 pp.
 内容) 3書: ①腹部(33章), ②頭胸部(27章), ③女性(24章), および3論: ①関節, ②疫病, ③熱病, からなる.
 出版) Geneve, 1688, 1696, 1706, 1718, 1735; Lyon, 1690, 1704, 1712; Venezia, 1733. 英語版はLondon, 1706, 1713.
 著者) フランス, モンペリエ大学の医師である.
- 68) ユンケン『医学実地』(1689) Jüngken, Johann Helfrich (1648–1726): *Praxis medica*.
 Jüngken JH. *Praxis medica, sive, Corporis medicina, morborum internorum corporeae machinae fere omnium, et fiendi et curandi methodum, juxta modenorum practicum saniora principia, nudis exhibens terminis*. Francofurti: impensis Joannis Ziegeri, typis Joann. Phil. Andreae; 1689. / 8° (18×11 cm), 1020 pp.
 内容) ABC順, 69疾患.

出版) Frankfurt am Main, 1689, 1698. 『近代医学実地必携 (Moderna praxeos medicae vademecum)』の表題で Nürnberg, 1694; Frankfurt am Main, 1707.

著者) ドイツの医師, マールブルクとギーセンで医学を学び, ハイデルベルクで医学の学位を得た。宮廷などで侍医を務めながら各地を転々とし, 多くの著作を著した。

- 69) ヴァルトシュミット『理性的医学実地』(1689) Waldschmidt, Johann Jakob (1644–1689): Praxis medicinae rationalis succincta.

Waldschmidt JJ. Praxis medicinae rationalis succincta, per casus tradita, et in appendice Monitis medico practico necessariis illustrata per plurimos morbos quibus accesserunt notae ejusdem ad praxin chirurgicam Barbetto; nec non ad casus Baldas. Timaei a Güldenkle. Omnia ad mentem Cartesii. Cum praefatione Johannis Dolaei ... Parisiis: sumptibus Societatis; 1691. / 8° (16×10 cm), 874 pp.

内容) 84例からなり, 頭部の疾患(1–15), 胸部の疾患(16–22), 腹部の疾患(23–42), 泌尿生殖器の疾患(43–57), 熱病(58–74), その他の疾患(75–84)。

出版) Frankfurt am Main, 1690, 1707; Paris, 1691.

著者) ドイツの医師, ウィーン, プラハなどで医学を学び, ギーセン大学で学位を得て, マールブルク大学の医学教授になった。学識のある医師で, デカルト説を支持した。

- 70) ペチャー『医学実地』(1693) Pechey, John (1655–1716): Praxeos medicae seu, methodus medendi.

Pechey J. Promptuarium praxeos medicae seu, methodus medendi, praescriptis celeberrimorum medicorum Londinensium concinnata. Amsterdami: [s. n.]; 1694. / 12° (14×8 cm), 302 pp.

内容) 43章からなり, 疾患をABC順。

出版) London, 1693, 1700; Amsterdam, 1694.

著者) イギリスの医師。オックスフォード大学で学び, ロンドンで医師として開業した。

- 71) グラッドバッハ『最新医学実地理念』(1694) Gladbach, Johann Bernhard (?–1728): Praxeos medicae idea novissima.

Gladbach JB. Praxeos medicae idea novissima in qua secundum solidiora verae physicae & sanioris medicinae fundamenta, omnium morborum origo ex quatuor cardinalibus concatenata serie deducitur, eorumque succincta ac perspicua medendi methodus explanatur. Herbornae: Jo. Nicolai Andreae; 1694. / 8° (18×11 cm), 499 pp.

内容) 4大疾患を扱い, ①熱病, ②壊血病, ③悪液質, ④カタル。

出版) Herborn, 1694, 1711; Napoli, 1731.

著者) ドイツの医師, クロイツナッハ出身で, ライデンで医学の学位を得て, フランクフルトで活動した。

- 72) モンジェ『医学実地文庫』(1695–97) Manget, Jean-Jacques (1652–1742): Bibliotheca medico-practica.

Manget JJ. Bibliotheca medico-practica. in 4 vols. Genevae: Sumptibus Joannis Anthonii Chouët [et David Ritter]; 1695–1697. / Folio, (39×24 cm), 1230+1162+872+1133 pp.

内容) ABC順。

出版) Geneve, 1695–97.

著者) スイスの医師。ジュネーブで生まれ, ヴァランスで医学を学び, ジュネーブで開業して, 医学に関わる集大成的な著作を多数著した。

(D) 1710年頃以後の医学実地書

73) ブールハーフェ『箴言』(1709) Boerhaave, Herman (1668–1738): Aphorismi.

Boerhaave H. Aphorismi de cognoscendis et curandis morbis in usum doctrinae domesticae digesti. Lugduni: Johannem vander Linden; 1709. / 8° (16×10 cm), 371 pp.

内容) 疾患を扱う96項目, 1479命題からなる。疾患は6群に分けられ, ①体質性の疾患(13項目), ②外部の疾患(19項目), ③熱病(21項目), ④局所性炎症(21項目), ⑤慢性病(13項目), ⑥女性・小児その他の疾患(9項目)。

出版) Leiden, 1709, 1715, 1721, 1727, 1737; Nürnberg, 1747; Leuven, 1752; Leipzig, 1758; Valencia, 1791. 英語訳が1715, フランス語訳が1738以後に3版。『箴言』の注釈版は1728以後に3版, ファン・スウィーテン(van Swieten, Gerard)による注釈版が1742以後に4版。

著者) オランダの医師, ライデン大学で神学と哲学を学んだ後に独学で医学を学び, ハルデルウェイク大学で医学の学位を得た。1701年にライデン大学の医学講師, 後に教授となり, 植物学, 医学理論, 医学実地を担当した。優れた講義によりライデン大学の名声を高め, ヨーロッパ各国から集まった多くの学生を教えた。

74) ヘルヴィッヒ『医学実地』(1710) Hellwig, Christoph von (1663–1721): Praxis medica.

Hellwig Cv. Praxis medica; oder, Richtige Anweisung, wie ein angehender Practicus Medicinae ... die Kranckheiten ... curiren ... möge. Leipzig: Friedrich Broschusi; 1710. / 8° (18×11 cm), 664 pp.

内容) 102章からなり, 熱病(14章), 頭部(28章), 胸部(10章), 腹部(36章), 生殖器(14章)。

出版) Leipzig, 1710.

著者) ドイツの医師, イェナとエアフルトで医学を学び, バート・テンシュテットの市医になり, エアフルトに移って皇帝侍医となった。

75) ツヴィンガー『医学実地劇場』(1710) Zwinger, Theodor (der Jüngere) (1658–1724): Theatrum praxeos medicae.

Zwinger T. Theatrum praxeos medicae quo aegritudines corporis humani tam internae quam externae ordine alphabetico ita pertractantur & exponuntur. Basileae: Johannis Brandmülleri; 1710. / 4° (21×17 cm), 656+615 pp.

内容) ABC順

出版) Basel, 1710.

著者) スイスの医師, パーゼルで医学の学位を得て, 2年間フランスに留学し, 帰国してパーゼル大学で修辞学の教授になり, 物理学教授になって業績を挙げ, 1703年に解剖学と植物学の教授, 1711年に医学理論と医学実地の教授になった。

76) ヴァレンティニ『確実医学実地』(1711–15) Valentini, Michael Bernhard (1657–1729): Praxis medicinae infallibilis.

Valentini MB. Praxis medicinae infallibilis. in 2 vols. Francofurti ad Moenum: apud Dominicum a Sande; 1711–15. / 4° (21×18 cm), 750+212+72 pp., 952 pp.

内容) 2部からなり, 第1部(10編), 第1編(「確実医学実地」)は年齢別の疾患(4節: ①小児, ②成長期と思春期, ③成人, ④老年), 第2編は熱病など全身疾患(16項), 第3～10編は論文, 手紙, 演説など。第2部は外科(4節), ①頭部(10章), ②頸胸部(6章), ③腹部(9章), ④体肢(14章)。

出版) Frankfurt am Main, 1711 (part 1), 1715 (part 2).

著者) ドイツの医師, ギーセンで医学を学び, ヨーロッパ各国に留学して, ギーセン大学の物理学教

授、後に医学教授になり、著作活動により有名になった。

- 77) ユンカー『理論実地医学概観』(1718) Juncker, Johann (1679–1759): *Conspectus medicinae theoretico-practicae*.

Juncker J. *Conspectus medicinae theoretico-practicae, tabulis CXVI. omnes primarios morbos methodo stahlina tractandos, exhiben.* Halae: Impensis Orphanotropei; 1718. / 4° (21×17 cm), 752 pp.

内容) 116表からなり、総論(1表)に続きおおよそ、出血(2–16表)、頭部(17–24表)、胸部(25–29表)、腹部(30–37表)、熱病と炎症(38–62表)、鬱滞(63–94表)、痙攣と運動異常(95–111表)、年齢別疾患(112–116表)。

出版) Halle, 1718, 1724, 1734. 『治療各論概観』の表題で Halle, 1750.

著者) ドイツの医師、マールブルクで哲学を、ハレで神学を学び、その後に教職に就き独学で医学を学び、1717年にハレで医学の学位を得て、1729年に教授に就任した。シュタールの学説の支持者である。

- 78) ホフマン『系統的理性的医学』(1718–39) Hoffmann, Friedrich (1660–1742): *Medicinae rationalis systematicae*.

Hoffmann F. *Medicinae rationalis systematicae*. 4 vols. in 8, Halae Magdeburgicae: Rengeriana; 1729–1739. / 4° (22×18 cm), 472, 460, 644, 600+552+664+560+320 pp.

内容) 第1巻: 生理学, 第2巻: 病理学, 第3巻: 治療学, 第4巻: 疾患各論, 5部からなり, ①熱病, ②出血と疼痛, ③痙縮と痙攣性疾患, ④無力による疾患, ⑤外的疾患。

出版) Halle, 1718–37; Francfurt am Main, 1738–39. 第1–3巻のフランス語訳 Paris, 1739. 第4巻の英語抄訳 London, 1783.

著者) ドイツの医師、イエナ大学で医学を学び、ハレ大学医学部の教授となり、各地の宮廷の侍医も勤めた。古今の学説を取り入れて独創的な医学思想を作り上げた。

- 79) アルベルティ『医学序論』(1718–21) Alberti, Michael (1682–1757): *Introductio in medicinam*.

Alberti M. *Introductio in universam medicinam tam theoreticam quam practicam*. In 3 vols., Halae Magdeburgicae: Litteris & impensis Orphanotropei; 1718–21. / 4° (23×18 cm), 437, 687, 1240+106 pp.

内容) 第1巻: 医学理論, 病理学. 第2巻: 徴候論, 健康論, 薬剤論, 外科論. 第3巻: 治療総論, 実地全般(12節: ①治癒, ②出血, ③出血作用, ④炎症, ⑤痙縮, ⑥痙攣, ⑦突発排出, ⑧漿液疾患, ⑨熱病, ⑩精神疾患, ⑪熱狂病, ⑫生命運動欠陥病), 化学基礎。

出版) Halle, 1718–21.

著者) ドイツの医師、イエナとハレで医学を学び、しばらく開業の後、ハレ大学の医学教授になった。シュタールの学説の支持者である。

- 80) ネンター『理論実地医学基礎』(1718–1721) Nenter, Georg Philipp (d. 1721): *Fundamenta medicinae theoretico-practica*.

Nenter GP. *Fundamenta medicinae theoretico-practica, seduncum celeberrimi D. D. Stahlii potissimum aliorumque celebriorum medicorum placita conscripta & propria experientia confirmata*. in 2 vols., Argentorati: Joannis Reinholdi Dulsseckeri; 1718–1721. / 4° (22×18 cm), 443, 408 pp.

内容) 医学理論は3部からなり, ①生理学, ②病理学, ③徴候論. 治療方法は総論3部(①治療法, ②外科, ③健康論), 各論8書(①出血, ②鬱滞, ③漿液性瑕疵, ④運動障害, ⑤熱病, ⑥感覚疾患, ⑦女性疾患, ⑧小児疾患)からなる。

出版) Strasbourg, 1718–21, 1750; Venezia, 1735, 1753.

著者) フランス, シュトラスブールの医師である。

- 81) アレン『普遍実地医学摘要』(1719) Allen, John (1660?–1741): *Synopsis universae medicinae practicae*.

Allen J. *Synopsis universae medicinae practicae: sive doctissimorum virorum de morbis eorumque causis ac remediis judicia*. Londini: R. Knaplock, J. Tonson, G. & J. Innys; 1719. / 4° (21×13 cm), 422 pp.

内容) 16章からなり, ①熱病 (13項), ②炎症 (11項), ③脳 (23項), ④肺 (9項), ⑤心臓 (4項), ⑥胃腸 (7項), ⑦腎と膀胱 (9項), ⑧体液 (8項), ⑨体肢 (5項), ⑩眼, 鼻, 口 (25項), ⑪皮膚 (2項), ⑫腫瘍 (2項), ⑬体表 (3項), ⑭女性 (21項), ⑮小児 (16項), ⑯薬局方 (ABC順).

出版) London, 1719, 1729; Amsterdam, 1730, 1749; Venezia, 1732, 1748, 1762; Frankfurt am Main, 1749, 1753. 英語訳が 1730, 1733, 1740, 1749, 1761.

著者) イギリスの医師, 医師協会の特別免許を得てブリッジウォーターで開業した。

- 82) ヴェラー『人体の反自然的状態の病理学』(1722) Wucherer, Christian Ludwig (1686–?): *Pathologia specialis statum corporis humani praeternaturalem*.

Wucherer CL. *Pathologia specialis statum corporis humani praeternaturalem, seu morbos, eorum causas et sumptomata exhibens, praemissa dissertatione praeliminari de pathologia generali, in usum auditorum publicae luci exposita*. Ienae: Mayerianis; 1722. / 4° (21×17 cm), 14+148 pp.

内容) 病理学総論に続き, 174の疾患をABC順

出版) Jena, 1722.

著者) ドイツ, イェナの医師である。

- 83) モラシュ『熱病と頭部疾患の医学実地学術講義』(1725) Morasch, Johann Adam (1682–1734): *Praelectiones academicae ex medicina practica de febris et capitis morbis*.

Morasch JA. *Praelectiones academicae ex medicina practica de febris et capitis morbis*. Ingolstadij: Typis Viduae Grassiana ...; 1725. / 4° (22×17 cm), 806+110 pp.

内容) 2書からなり, ①熱病 (総論, 各論), ②頭部 (外部, 内部).

出版) Ingolstadt, 1725.

著者) ドイツの医師. 教師になった後, インゴルシュタットで医学を学び, 医学教授になって植物園を整備し教育方法を改善するなどの貢献をした。

- 84) ショー『医療の新実地』(1726) Shaw, Peter (1694–1763): *A new practice of physic*.

Shaw P. *A new practice of physic: wherein the various diseases incident to the human body are orderly described, their causes assign'd, their diagnostics and prognostics enumerated, and the regimen proper in each deliver'd*. 3rd ed. London: Printed for J. Osborn and T. Longman...; 1730. / 4° (21×13 cm), 712 pp.

内容) 3部からなり, ①頭, 胸, 腹, 全身 (23節), ②妊娠, 出産, 出産後 (3節), ③小児 (1節), ④外部 (6節).

出版) London, 1726, 1728, 1730, 1735, 1738, 1745, 1753.

著者) イギリスの医師, ロンドンでしばらく開業した後, 1726年に医師協会の免許を得て, 学位も取った. 医師として人気があり, 医師協会の会員になり, 国王ジョージ2世の侍医になった。

- 85) シュタール『シュタール実地』(1728) Stahl, Georg Ernst (1660–1734): *Praxis Stahlianiana*.

Stahl GE. *Praxis Stahlianiana, das ist ... Collegium practicum*. Leipzig: Caspar Jacob Eyssel; 1728. / 4° (23×18 cm), 1326 pp.

内容) 5節からなり, ①血液の異常 (7部), ②漿液の瑕疵, ③運動の異常, ④内部感覚の異常, ⑤新生児, ⑥小児.

出版) Leipzig, 1728, 1732, 1745.

- 著者) ドイツの医師, イェナ大学で医学を学び, 化学の講義と研究に従事して名声を得て, ワイマール共和国の宮廷侍医, ハレ大学医学部の教授になった. 燃焼に関するフロギストン説を提唱した.
- 86) サンツ・デ・ディオス『グアダルーベ医学実地』(1734) Sanz de Dios y Guadalupe, Francisco (fl. 18th century): *Medicina practica de Guadalupe*.
Sanz de Dios y Guadalupe F. *Medicina practica de Guadalupe*. Madrid: Herederos de Francisco; 1734 / Folio (32×20 cm), 352 pp.
内容) 6書からなり, ①熱病(11章), ②頭部(12章), ③胸部(6章), ④胃腸(10章), ⑤腎臓(4章), ⑥子宮(10章).
出版) Madrid, 1734, 1739, 1750, 1756.
- 著者) スペインの医師, サラマンカ大学で医学を学び, グアダルーベの修道院の医師となった.
- 87) ハイスター『医学実地提要』(1743) Heister, Lorenz (1683–1758): *Compendium medicinae practicae*.
Heister L. *Compendium medicinae practicae, cui praemissa est de medicinae mechanicae praestantia dissertatio*.
Amsteldaeami: apud Janssonio-Waesbergios; 1743. / 8° (18×11 cm), 70+472 pp.
内容) 20章からなり, ①多血症, ②–⑥熱病, ⑦炎症, ⑧–⑨出血, ⑩鬱滞と疼痛, ⑪悪液質, ⑫閉塞, ⑬流出, ⑭感覚, ⑮運動, ⑯胃腸, ⑰女性, ⑱小児, ⑲中毒, ⑳液体薬.
出版) Amsterdam, 1743, 1748, 1762; Venezia, 1748, 1753, 1759, 1763. ドイツ語訳が1744, 1759, 1766. 英語訳が1757. オランダ語訳が1762.
- 著者) ドイツの医師, フランクフルトで生まれヨーロッパ各地の大学で医学を学び, とくにアムステルダムで人体解剖を学び, 1708年にハルデルウェイク大学で医学の学位を得た. 1711年にアルトドルフ大学の解剖学外科学教授, 1720年にヘルムシュテットの大学の解剖学と外科学教授, さらに医学と植物学の教授を務め, 教師としてまた多数の著作により名声を広げた.
- 88, 89) ゴルテル『精選医術』(1744), 『医学実地体系』(1752) Gorter, Johannes de (1689–1762): *Gezuiverde geneeskunst. Praxis medicae systema*.
Gorter Jd. *Gezuiverde geneeskunst, of kort onderwys der meeste inwendige ziekten: ten nutte van chirurgyns, die ter zee of velde dienende, of in andere omstandigheden, zig genoodzaakt vinden dusdanige ziekten te behandelen*. Amsterdam: Isaak Tirion; 1744. / 8° (21×13 cm) [XX], 264, [XVI] pp.
内容) 7部に分かれ, ①総論(12章), ②頭部(7章), ③頸部(1章), ④胸部(5章), ⑤腹部(21章), ⑥尿路(7章), ⑦皮膚(2章).
出版) Amsterdam, 1744, 1761.
Gorter Jd. *Praxis medicae systema. Editio prima italica ab auctore ipso emendata atque aucta. Pars prima. de morbis generalibus*. Patavii: Joahhem Manfre; 1752. / 4° (26×19 cm), 259 pp.
内容) 2部からなり, 第1部の総論は5書を含み, ①固体の疾患(5題), ②体液の疾患(5題), ③疾患の作用(4題), ④外因の疾患(2題), ⑤疾患を起こす原因(2題)を扱い, 第2部の各論は5書を含み, ①頭部の疾患(21項), ②頸部の疾患(15項), ③胸部の疾患(18項), ④腹部の疾患(体壁と内臓の疾患16項, 乳糜化の疾患37項, 胆汁生成の疾患7項, 尿生成の疾患11項), ⑤生殖の疾患(男性生殖器の疾患8項, 女性生殖器の疾患11項, 胚子学13項).
出版) Harderwijk, 1750, 1767; Padova, 1752, 1756, 1769; Frankfurt am Main, 1755.
- 著者) オランダの医師, ライデン大学で医学を学び, しばらく開業した後, ハルデルウェイク大学の医学教授になり, 化学と植物学の講義もした.
- 90) カリオ『医学実地提要文庫』(1745) Carrió, Cristófol (?-?): *Bibliotheca manual medico-practica*.
Carrió C. *Bibliotheca manual medico-practica*. Barcelona: Pablo Campins; 1745. / 8° (17×11 cm), 293 pp.

内容) 65章からなり、熱病(16章)、頭部(17-65章)。

出版) Barcelona, 1745

著者) スペイン、マヨルカ島のバルマの医師である。

- 91) ブルークス『医療の一般実地』(1751) Brookes, Richard (fl. 1721-1763): The general practice of physic.

Brookes R. The general practice of physic; extracted chiefly from the writings of the most celebrated practical physicians: and the medical essays, transactions, journals, and literary correspondence of the learned societies in Europe. 5th ed., in 2 vols., London: J. Newbery; 1765. / 8° (17×10 cm), 362, 382+82 pp.

内容) 2巻からなり、第1巻は総論(14項)、各論の69項は熱病、炎症、脳、肺、腹部、疼痛などを扱う。第2巻の77項は体肢、皮膚、出血、感情、眼、耳、鼻、触覚、運動機能、疼痛、排出などを扱い、女性の疾患(23項)、小児の疾患(18項)、付録(4項)。

出版) London, 1751, 1765(第5版), 1777(第7版)。

著者) イギリスの医師、サリーで開業して、アメリカとアフリカにも旅行した。

- 92) ウーステルディク・シャハト『実地医学教程』(1753) Oosterdijk Schacht, Johannes (1704-1792): Institutiones medicinae practicae.

Oosterdijk Schacht J. Institutiones medicinae practicae ad auditorum ptissimum usus in epitomen redactae et evulgatae. Trafecti ad Rhenum: Johannem Paulum Krausium; 1753. / 4° (22×19 cm), 287 pp.

内容) 2節からなる。第1節(全身疾患)は2書を含み、①熱病性全身疾患(14章)、②非熱病性全身疾患(6章)を扱う。第2節(局所疾患)は11書を含み、①頭部の疾患(14章)、②眼の疾患(6章)、③耳の疾患(4章)、④鼻の疾患(2章)、⑤咽喉の疾患(2章)、⑥胸部の疾患(14章)、⑦腹部内臓の疾患(18章)、⑧腎臓と膀胱の疾患(10章)、⑨生殖器官の疾患(2章)、⑩女性に関する疾患(5章)、⑪小児の疾患(1章)。

出版) Utrecht, 1753, 1765, 1757; Amsterdam, 1767.

著者) オランダの医師、ライデンで医学を学び、ユトレヒト大学の医学教授になり終生務めた。

- 93) ルートヴィヒ『臨床医学教程』(1758) Ludwig, Christian Gottlieb (1709-1773): Institutiones medicinae clinicae.

Ludwig CG. Institutiones medicinae clinicae praelectionibus academicis accommodatae. Lipsiae: apud Ioh. Fridericum Gleditsch; 1758. / 8° (20×12 cm), 538 pp.

内容) I) 全身性疾患として①血液系(熱病、炎症、出血)、②漿液リンパ系、③神経系。II) 局所性疾患として①頭部、②胸部、③腹部。付録として妊娠、分娩、幼児。

出版) Leipzig, 1758, 1769, 1787.

著者) ドイツの医師、ライプツィヒで医学と自然科学を学び、植物学者として働きながら学業を続けて学位を取り、1740年に医学の員外教授、1747年に医学(解剖学と外科学)の正教授になった。

- 94, 95) リュート『実地医学提要』(1759), 『医学実地普遍概要』(1765) Lieutaud, Joseph (1703-1780): Précis de médecine pratique. Synopsis universae praxeos medicae.

Lieutaud J. Précis de la médecine pratique contenant l'histoire des maladies, dans un ordre tiré de leur siège avec des observations & remarques critiques sur les points les plus intéressans. Paris: Vincent; 1759. / 8° (19×10 cm), 762 pp.

内容) 3書からなる。第1書は内部の病気(4節)、①全身性(熱病その他)、②頭部、③胸部、④腹部。第2書は外部の病気(3節)、①全身性、②頭部、③体幹と体肢。第3書は女性と小児の病気(2節)、①女性、②小児。

- 出版) Paris: Vincent, 1759, 1761, 1769; Paris: Barrois, 1776, 1781; Paris: Didot, 1777. イタリア語訳が 1774, 1789, 1806.
- Lieutaud J. Synopsis universae praxeos medicae... cui subjungitur Liber de cibo et potu. Nova editio. in 2 vols., Parisiis: apud P.-F. Didot juniorem; 1770. / 4° (26×19 cm), 594, 623 pp.
- 内容) 2巻からなる。第1巻は疾患(3書), 『実地医学提要』とほぼ同様(第2書の第4節で皮膚を扱う)。第2巻は医薬(3書), ①内用薬, ②外用薬, ③飲食物。
- 出版) Amsterdam, 1765; Paris: Didot, 1770, 1774; Padova, 1777, 1786. 英語訳が 1816, 1820.
- 著者) フランスの医師, エクス・アン・プロヴァンスで生まれ, モンペリエで医学を学び, 故郷で開業して解剖学の研究を行い, エクス・アン・プロヴァンス大学の教授となる。1750年からヴェルサイユ宮廷に勤め, 1770年に国王の侍医となった。
- 96) ボール『近代医療実地』(1760) Ball, John (1704?–1779): The modern practice of physic.
Ball J. The modern practice of physic: or a method of judiciously treating the several disorders incident to the human body. London: A. Millar; 1760. / 4° (22×13 cm), 243, 375 pp.
- 内容) 2巻からなり, ①熱病(14項目), ②個別疾患(78項目, 配列不特定)。
- 出版) London, 1760, 1762, 1768.
- 著者) イギリスの医師でいくつかの著作を刊行し, とくに『近代医療実地』は好評であった。
- 97) ピケール『医学実地』(1764–72) Piquer, Andrés (1711–1772): Praxis medica.
Piquer A. Praxis medica. ad usum scholae Valentinae. in 2 vols., Matriti: Apud Joachimum Ibarram; 1764–72 / 4° (21×14 cm), 230, 274 pp.
- 内容) 3書からなり, ①頭部(10章), ②胸部(9章), ③腹部(13章)。
- 出版) Madrid, 1764–72, 1786; Amsterdam, 1775.
- 著者) スペインの医師, ヴァレンシア大学で医学を学び, 著作と研究を続けて解剖学教授になった。マドリッドで宮廷侍医になった。
- 98) フォーゲル『実地医学提要』(1781–1816) Vogel, Samuel Gottlieb von (1750–1837): Handbuch der practischen Arzneywissenschaft.
Vogel SG. Handbuch der practischen Arzneywissenschaft zum Gebrauche für angehende Aerzte. in 6 parts. Stendal: Franzen und Grosse; 1800–20. / 8° (18×11 cm), 378, 392, 495, 480, 213, 238 pp.
- 内容) 6部からなり, ①熱病(5章), ②悪性の熱病(6章), ③発疹性熱病(12章), ④頭部, 胸部, 腹部, 生殖器(26章), ⑤出血(9章), ⑥下痢(7章)。
- 出版) Stendal, 1781–1816, 1820; Wien, 1787–, 1828; Linz, 1791–.
- 著者) ドイツの医師, ゲットティンゲンで医学を学び, 学位と教授資格を取り, ゲットティンゲンとラツェブルクで開業して医学書を著し, 1789年にロストック大学医学部の教授になった。
- 99) ブルセリウス『医学実地教程』(1782–1785) Burserius, Joannes Baptista (1725–1785): Institutionem medicinae practicae.
Burserius JB. Institutionem medicinae practicae quas auditoribus suis praelegebat. in 8 vols., Venetiis: Apud Josephum Orlandelli; 1782–1791. / 8° (20×12 cm), 221, 375, 388, 276(+55), 224, 241, 323, 278 pp.
- 内容) 5部に分かれ, ①熱病(第1–2巻), ②熱性発疹疾患(第3–4巻), ③頭部の疾患(第5–6巻), ④胸部の疾患(第7巻), ⑤腹部の疾患(第8巻)。
- 出版) Venezia, 1782–91; Milano, 1829–30; Leipzig, 1798. 英語訳5巻本が 1800–03. イタリア語訳3巻本が 1841.
- 著者) イタリアの医師, パドヴァとボローニャとフィレンツェで医学を学び, ファエンツァで主任医

師として20年間勤務し、1770年にバヴィア大学の薬理学教授になった。

100) ウーステルディク『実地医学指針』(1783) Oosterdijk, Nicolas George (1740–1817): Praecepta medicinae practicae.

Oosterdijk NG. Praecepta medicinae practicae in usum academicum. Lugduni Batavorum: Abrahamum et Janum Honkoop; 1783. / 12°, 293 pp.

内容) 89章からなり、全身疾患(1–20章、熱病など)、局所疾患(21–81章、頭から足への順)、性に関する疾患(82–86章)、小児の疾患(87–89章)。

出版) Leiden, 1783; Leuven, 1786.

著者) オランダの医師、上記ウーステルディク・シャハトの息子で、ライデンとユトレヒトで医学を学び、ライデン大学で医学理論と実地の教授になり終生務めた。

101) コンスブルッフ『実地医のための携要』(1794–95) Consbruch, Georg Wilhelm Christoph (1764–1837): Taschenbuch für practische Ärzte.

Consbruch GW. Taschenbuch für angehende practische Aerzte. 3rd ed. in 2 parts, Leipzig: Johann Ambrosius Barth; 1800–1802. / 8° (17×10 cm), 452, 618 pp.

内容) 2部からなり、第1部は総論と熱病。第2部(9綱)は、①特定の原因による疾患(9疾患)、②悪液質と慢性皮膚疾患(12疾患)、③排出障害(4群12疾患)、④臓器障害(3群9疾患)、⑤リンパ系障害(10疾患)、⑥血流障害(2群13疾患)、⑦神経疾患(15疾患)、⑧精神疾患(2疾患)、⑨各部の疾患(15疾患)、小児の疾患(12疾患)、外的要因による生命の危機。

出版) Leipzig, 1794–95; 1800–02(第3版)、1808–09(第5版、『実地医のための臨床携要(Klinisches Taschenbuch für practische Ärzte)』)。

著者) ドイツの医師、ハレで医学の学位と教授資格をとりヘルフォルトとビーレフェルトで開業した。